

研究実施のお知らせ

2018年4月20日 ver.1.4

研究課題名

Bone SPECT の定量解析の研究

研究の対象となる方

2015年06月から2024年3月の間に島根大学医学部附属病院核医学検査室で骨SPECT/CT(骨シンチの断層撮影)を複数回撮像し治療効果判定に定量値(アイソトープの取り込み量)で診断が必要な患者様です。

研究の目的・意義

いままでの骨シンチは2次元画像であり、診断医は複数検査画像を視覚的に観察し治療効果あり、または無しと判断していた。しかし、骨シンチの断層撮影を行うことで注射したアイソトープが多く集積した領域の取り込み量の変化から治療効果の診断がより高精度に行うことが可能となりました。

今回は、この解析法を国内でもいち早く導入した島根大学で骨シンチ検査を行った患者様で使用し有用性を確かめます。既に薬事承認が取得されているものなので信頼性も高い解析法です。

研究の方法

前立腺癌、乳癌の骨転移に対しては様々な薬剤治療(デノスマブ、ビスフォスフォネート製剤、ドセタキセル、223Ra、外照射治療など)が行われているが、効果判定としては血液検査(腫瘍マーカー、骨代謝マーカーのALP、血清BAP、尿中NTx)を用いている。今回、骨シンチグラフィの3次元定量法を経時的に行い、得られた定量値(アイソトープの取り込み量)と各種マーカー値を比較し、治療効果判定として利用可能であることを証明する。また3次元定量法による評価の有用性が最大限発揮できるような解析方法を検討するため、解析方法を変えたときの定量値や、精度について、比較する。利用する資料は骨シンチ断層画像であるが解析は全て核医学検査室で行い外部に持ち出すことはない。外部パーソナルコンピュータで検証する際は画像データの匿名化を行い患者が特定できないような処理を行います。

研究の期間

2014年8月～2024年3月

研究組織

この研究は島根大学放射線部が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部附属病院放射線部技師長 山本泰司

解析ソフトウェアのプログラミング 使用法

[解析ソフトウェアの使用法における情報提供]

日本メジフィジックス株式会社

富士フイルム RI ファーマ株式会社

[担当者]

谷川泰幸

河上一公

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2019年3月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをご存知になりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院 放射線部 山本泰司

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2438 FAX 0853-23-9340